

松江神社神幸祭を開催
完成！床几山公園の参道と車両回転場

令和5年11月3日



毎年、床几山公園で行われている神幸祭で、松江神社からのお神輿は今年から雑賀町内の若手の皆さまの手により担ぎ上げられました。

この地から市内を見渡し、今後の発展に向け思いを巡らすことができました。

また、今年は新たな景色で参列することとなりました。

堀尾吉晴公、忠氏公の城地選定之地を示す石碑までの参道が石畳で整備(公園整備費)されました。

さらに階段横に車両回転場が整備され、車の利用が可能となりました。実は、この後案内板とベンチが整備される予定です。



個人市内視察 ① 松江バイオマス発電株式会社

松江市大井町 R5.7.26

隣接するナカバヤシ(株)出資のもと、バイオマス発電を行う施設です。市のSDGs推進課、環境エネルギー部の職員の方々と共に再生可能エネルギーの更なる活用を視野に訪問し、現在の課題や発展目標について伺いました。喫緊の課題は「木質チップ」の不足です。

全世界的な木材不足と中国電力三隅発電所の稼働による影響です。木質チップの原料が間伐材などである以上、急に増やすことは難しいですが、林業の発展、担い手の育成等、先々打てる手立てがないか考えていきたいです。



個人市内視察 ② 株式会社ミライエ 松江市矢田町 R5.10.3

こちらは、堆肥化を中心としたリサイクル設備のプラントメーカーです。宍道湖はもとより堀川、天神川で繁茂する「水草」の処理が問題視される中、県により「宍道湖に係る水草対策会議」が設置される(H25年度より)も、今のところ有効な手立てはなく、ほとんどは焼却処分されています。その中、大量の下水汚泥や食品廃棄物、家畜の糞などを効率的に堆肥に変える装置を開発している(株)ミライエを訪問しました。

話を伺う内に資源化や利活用の可能性が見えてきました。今後、市の担当部局と共に調査研究を続け、松江市の環境整備、カーボンニュートラルに尽力してまいります。



令和5年12月定例会 主な日程

- | | |
|------------|-------------------|
| 11月28日 | 本会議(会期の決定、提案説明) |
| 12月4日 | 本会議(一般質問、代表質問) |
| 12月5日 | 本会議(一般質問、一問一答質問)※ |
| 12月6日 | 本会議(一般質問、一括質問)※ |
| 12月7日 | 総務委員会 |
| 12月8日 | 教育民生委員会 |
| 12月11日 | 建設環境委員会 |
| 12月12日 | 経済委員会 |
| 12月15日 | 予算委員会 |
| 12月13日～19日 | 特別委員会が開催されます |
| 12月20日 | 本会議(最終日) |

※12月5日もしくは6日に登壇予定です

今夏7月、堅町・本郷町、両町にわたる天神川沿いの2ヶ所の道路補修が完了いたしました。

街路樹の根が道路を持ち上げ通行に支障をきたしていたところ、昨年、両町内から土木要望が上げられました。この度の施工完了で、人も車も安全な通行が可能になったことと思います。



雑賀小学校前の歩道橋修理

9月末、腐食した金属の雨どいをビニール製に交換が完了しました。引き続き、階段部分の補修を要望していきます。



実弟が来庁しました(令和5年9月8日)

東京の商社でエネルギー関係の仕事に就いている弟、悟が来庁しました。以前から「業務を通じ故郷である松江市に何か貢献できることはないだろうか」との思いがあった彼ですが、縁あって2年前から、上定市長と意見交換を重ねる機会に恵まれました。

今回は市長から、「MATSUE DREAMS2030」について熱心なレクチャーを受け、今後も情報交換しながら、出来ることを探っていくようです。

今回はTBSドラマ「VIVANT」(ロケ地)繋がりで大いに盛り上がっていました。



※そろって母校は松江南高校です。
写真左から・・原田守(兄19期)上定昭仁市長(28期)原田悟(弟23期)

パナソニックバレーボール教室を開催(令和5年6月14日)

松江市とスポーツ振興に係る連携協議を締結しているパナソニックホールディングス(株)のご協力により、パナソニックサンダースの中本選手、伊賀選手、新選手、牧山氏をお招きしてバレーボール教室を開催いたしました。

参加した生徒さんが、トップリーグで戦う選手のプレーに触れることで刺激になり、今後の競技生活に活かされることを望みます。



松江市議会議員 原田まもる通信

地域をまもる。だより

〈発行日〉2023年11月25日

〈発行者〉原田守後援会事務所/松江市雑賀町225 TEL.0852-27-0925 FAX.0852-20-0460



新型コロナウイルス 5類移行から半年

新型コロナウイルスが感染症上5類に移行されてから、半年になります。学校行事、地域のお祭り等、コロナ禍前の状態にほぼ戻って開催されたことは喜ばしいことです。しかし、コロナ禍前とは大きく異なり、季節外れのインフルエンザ感染の勢いが衰えず、松江圏域は警報レベルで今後さらなる流行の拡大、咳止めなどの医薬品の不足が心配されます。

また、一畑百貨店の閉店(来年1月)、B1新基準に対応するスサノオマジックのホームアリーナ増改築、松江水郷祭の有料観覧席、公共交通であるバスの減便、市ガス事業民営化等々、市民の皆さまの関心事項がさまざまあります。

10月20日には、松江城に近い県庁前の一角に高層マン

ション(19階)を建設する計画が諮問され、松江市の景観審議会の答申では景観計画の基準に反しないとの見解は示されました。しかし、周囲には「これを認めると今後のマンションの乱立が心配である」「高さを下げてはどうか」などの意見が相次ぎ、私も慎重な議論が不可欠であると強く感じ、市民の皆様、担当部門、議会内等、様々な意見交換をしています。

ここで挙げました事例以外にも、市民の皆さまが関心を大きく示し、問題視しておられる事項に私も大きな関心を寄せ、日々、市の執行部と協議を重ねているところです。

これからも限られた紙面ですが、有効に活用し、情報発信してまいります。

今年の「夏」「秋」は、フルスペック!!

雑賀地区、夏の一大イベント「雑賀まつり」(8/26)もコロナ禍を経て、新たな形で開催されました。猛暑を考慮して、出店スペースをピロティに集約しステージは公民館前に配置。

最大の目玉は公民館と小学校の間の道路での「歩行者天国」実施です。私は青少協委員長として子供ひろばを担当させていただきました。

「雑賀まつり」「雑賀地区文化祭」(10/28)も子供ひろばは「ヨーヨー釣り」「輪投げ」「スーパーボールすくい」での歓声で大賑わいでした。「雑賀地区文化祭」では4年ぶりにステージ発表が行われ、見事な発表の数々を拝見しました。来場者はなんと「雑賀まつり」500人、「雑賀地区文化祭」は350人、あらためて雑賀地区のパワーを実感しました。

このふたつのイベントの成功に欠かせなかったのが、中学生高校生のボランティアスタッフです。地元の子供たちが世代を超えて住民と繋がることは、地域の大きな活力になります。子供たちの住みよい地域を作るために、しっかりサポートしていこうと思う日々です。



観光再始動事業・・・京橋川沿いに「マツエテラス」完成!!

先ずは9/9、水都・松江市の中心部を流れる京橋川沿い(京店・片原)に全長150メートルのテラス(杉のカウンターを設置)が完成しました。松江水辺エリアマネジメント協議会の企画(観光庁補助金活用)によるもので、名付けて「マツエテラス」。幅42センチのヒノキのベンチ7台も設置され、夜間はPM10時までライトアップ。川をゆく堀川遊覧船やレトロな旧日銀松江支店をベンチに座ってゆったり眺めながら飲食を楽しむことができます。

以前から趣のある京橋川遊歩道の有効活用、水辺の魅力をさらに高めることはできないものかと模索しておりましたので、テラスの完成を喜びました。

カラコロ工房リニューアルオープン(令和6年10月完成予定)に向けてテナント出店者の募集が開始されました。これからの取り組みで、水都・松江の魅力がさらにアップし、にぎわいの創出につながることを今から楽しみです。



松江まつり藝行列開催!! 令和5年10月15日

朝方の雨が見事に上がった秋空のもと、松江の秋の風物詩「松江祭藝行列」が、開催され、私も津田街道の一員として参加しました。相生町・堅町・津田街道・横濱の4町内が集結し、「雑賀小学校開校150周年」を祝福する藝を響かせました。

新聞でも取り上げられ、「松江市最初の小学校」の気概を大いに示すことができたのではないのでしょうか。

6月定例会 一般質問〈抜粋〉

市報松江、報道等でご存知の方も多いかと思いますが、この度、松江市が 島根県内で初めて **SDGs未来都市**に選定されました。私はかねてより、SDGsに高い関心を持っており、市政は SDGsの基本理念 **＊だれひとり取り残さない＊**を持って行われるべきと考えております。そこで SDGs未来 都市選定後の市の取組について、様々な質問をいたしました。



SDGsとは、国連において2015年、持続可能な開発目標として合意されました。

1 松江市中海振興ビジョンについて

Q 松江市中海振興ビジョンでは、SDGs 17 のゴール全てを網羅し中海の可能性に言及している。まず、中核を担うべきものを伺う。

A 中核となる施策については、SDGsの3つの側面である、経済、社会、環境、それぞれで整理している。環境については中海エリアの自然の豊かさを守り、それを後世に伝えていくこと、社会についてはスポーツパークの整備による拠点づくりや体験型レジャーにより暮らしを楽しむ場としていくこと、さらに経済については中海エリアの食材や特産品のブランド化とともに、水産資源の回復によって産業基盤を強化していく。

2 SDGs 未来都市選定 について

Q 選定されたことで具体的に得られるものは何か、予算措置を含めて伺う。

A 関連する施策の推進にあたり、関係省庁や選定審査いただいた外部委員会の有識者からの助言による支援、さらにデジタル田園都市国家構想交付金の申請可能事業数が1事業枠追加されるメリットがある。また、モデル事業採択により本年度に限り、地方創生支援 事業費補助金が申請できる。今年度はコンソーシアムの設置準備や啓発動画の作成などを予定しており、財源の確保に向け協議を進める。尚、SDGs未来都市選定は全国 1,700 以上ある地方自治体のうち182都市であり、モデル事業の選定は60都市であるから、制度のメリット以上の価値があると捉えている。

Q SDGsモデル事業では17のゴール(目標)の数を限定しているが、限定に至った理由、何を目標しているか伺う。

A 本市が取り組む施策については、SDGsが目指す17の目標全てにつながっている。一方でSDGs未来都市選定では、地域の個性を際立たせることにより、SDGsの達成と地方創生を実現するものとされている。そのため本市のモデル事業提案に当たっては松江市の特徴を印象づける水の都を核にSDGsの6番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」14番目の目標「海の豊かさを守ろう」などいくつかにPRポイントを絞り国際文化観光都市・松江ならではの豊かさの創出を目指している。

Q カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーに関連して 廃食油の回収について伺う。持続可能な航空燃料、いわゆるSAF(化石燃料と比較して二酸化炭素の排出を大幅削減が可能)については、今年に入り一層注目が集まり、原料の廃食油の取引価格がこの1年間で3倍に高騰したとの報道が相次いでいる。このタイミングで、松江市はSDGs未来都市に選定され、廃食油回収(平成23年度に終了)再開の好機と捉えるが、見解を伺う。合わせて使用済み割り箸回収の再開について見解を伺う。

A 廃食油回収の当初の目的は家庭排水への流出予防の啓発であったが、下水道の普及により河川の水質改善が図られたことから終了した。SAFについては国の動向を注視しつつ、回収の可能性について検討したい。また、割り箸については受入依頼先の王子製紙米子工場の設備の老朽化により受入困難となり、今後も再開予定はない。

回答を受けて

現在、家庭において発生する、**廃食油は国内で年間約10万トンに上っており、そのほとんどが再利用されずに可燃ごみとして廃棄されている**。大手スーパーマーケットチェーンでは専用容器を用いた回収実証実験を2月より開始している。リサイクルすれば貴重な資源となり、ゴミの削減、すなわちCO2削減となる。リサイクルできるものがさらに増えて、ゴミの分別が「燃やせるゴミ」から「燃やさないゴミ」へと発展するよう、積極的な取組を期待する。

その後

ユーグレナとの協定締結と廃食油回収を検討

松江市は10月バイオ燃料事業などを手がける㈱ユーグレナと「カーボンニュートラル」の推進、バイオ燃料の普及啓発という内容で協定を締結しました。先ずユーグレナの次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を清掃収集車に使用する他、原料となる廃食油の回収も検討するとのことです。SDGs未来都市選定後の取組【松江城に代表される歴史と宍道湖・中海といった松江市特有の自然環境を生かして、地域経済の持続可能な発展を目指す】を成功に導くためには、官民の取組はもちろん、市民の皆さまおひとりおひとりの行動が重要になってくると考えます。朝日新聞の第9回SDGs認知度調査(2月実施)によると、「SDGsに関心あり」が初の過半数(53.1%)・・・とありますが、周囲には「何をしたらいいかわからない」との声もあります。SDGsは壮大な目標ですが、身近な目標でもあります。松江市民の皆さまの関心度がさらに高くなるよう、オール松江でSDGsに取組むことができるよう、引き続き有効な策を提案して参ります。

9月定例会 一般質問〈抜粋〉

1 2023 松江水郷祭について

今年の松江水郷祭では過去最高の2万発の花火が打ち上げられ、人出は昨年40万人に対して今年は65万人…との報道があり、これまでで最大規模の開催となりました。ただ、有料観覧席(昨年の10倍に拡大)については、販売が7割弱にとどまり、「有料なのに場所取りが必要だった」との批判も聞かれました。来年の開催に向けて、今回の徹底した検証が必須であることから、さまざまな質問をいたしました。(一部を掲載)

Q 今年度は社会実験として開催されたが、最終形態の完成は何年後を想定しているか伺う。

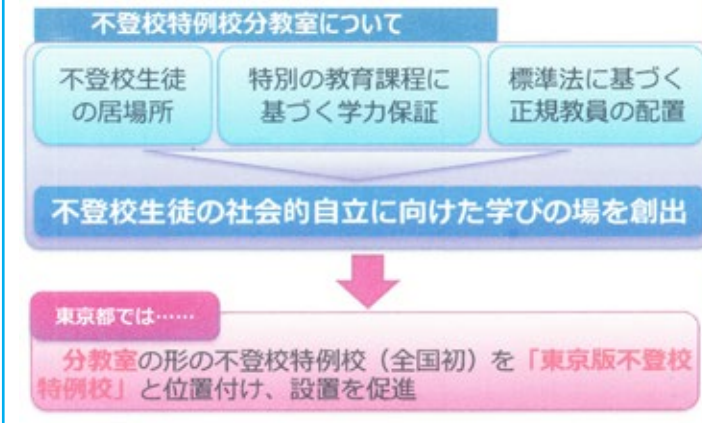
A 持続可能な花火大会として継続するために、新たな運営モデルの構築が必要だと考える。実証実験で得た成果や課題を分析しながら、ブラッシュアップしていく必要があり、2年後の2025年の本格実施を目指して取組んでいきたい。

その後

主催団体がとりまとめたアンケート結果では、有料化については理解を示す人が多かった一方、値段設定について不満が多いことが分かりました。一方、全国では少なくとも25か所で資金難のため花火大会が中止に追い込まれたとの報道がある中、過去最大規模(経済効果は昨年の1.6倍増の24億円余り)で開催されたことは松江市民の皆さまにとって、松江市の観光業にとっても大きな意味を持つと考えます。今大会は松江市より補助金として税金1,700万円が支出されており、財源確保は重要な課題です。ふるさと納税の導入などの有効な提案を続けてまいります。

〈教育民生委員会行政視察〉不登校総合対策【不登校特例校分教室】について 東京都福生市 R5.10.11

資料



【不登校特例校分教室】設置の背景と特徴
福生市では不登校出現率が、以前より国や都の数値と比べると高い数値を示しており、様々な不登校施策を打ち出し実施したが中学校のH29年度の不登校出現率は4.53%(全国平均3.25%)更にH30年度6.46%(全国平均3.65%)と高い状況が続いていた。在籍学校に復帰することのみを目指すのではなく、生徒にとって最も大切な役割となる社会的自立に向けた支援を担った支援機能を備えた東京版【不登校特例校分教室】を新たに設置していくこととなり、R2年4月に開室。**【不登校特例校分教室】の特徴**
不登校に対して、学校ごとの対応とは別に、上記、資料のとおり、新たな学びの場として福生市立福生第一中学校に分教室名：「7組」として設置。
※定員20名に対して、校長、副校長、主任各教科担当10名とスクールカウンセラーを含め、正規職員を多く配置。

2 公共交通機関の在り方について

運転手不足により、一畑バスの減便(8月14日から松江市、雲南市で平日20便)が発表されたのに続き、松江市営バスでも10月1日より減便のダイヤ改正が実施されることになり、驚かれた方も多いことと思います。路線バスは市民の皆さまの**貴重な足**であり、減便による利便性の低下も危惧され、影響は大きいことから、今回、取り上げることにいたしました。

Q 今後、「松江市地域公共交通網形成計画4次計画」で取組むべき課題を伺う。

A 運転手不足が深刻さを増す中、いかに市民の移動手段を維持していくかが次期計画の重要なテーマになると考える。重複した路線を見直すなど一層の合理化を進め、効率のより良い路線、ダイヤを構築する必要があると考える。あわせて、運転士の処遇改善や働き方改革など、運転士の確保に向けた取組についても、次期計画において議論してまいりたい。

その後

10月24日、公共交通を取り巻く課題を話し合うプロジェクトチームの会合が松江市で初めて開催されました。今後、深刻化するタクシーやバスの乗務員不足について、議論を深めていくことになり、動向を注視しています。先日、臨時国会の所信表明演説で岸田首相が「ライドシェア*」について言及され、議論は国会の場に移りました。市民生活に密着した重要な課題として取り組んでいきたいと思ひます。
※一般のドライバーが自家用車を使って有料で人を運ぶサービス

視察を終えて…

10月4日文部科学省が公表したR4年度の小中学校の問題行動・不登校調査では不登校の小中学生数は30万人に迫るものでした。島根県では国公私立小中学校での不登校(30日以上欠席)児童生徒数は前年度を386人上回る1,937人。千人当たりでは37.7人で茨城、沖縄に次いで全国で3番目に多い結果となりました。松江市でも県同様、502人から90人増加し592人となり重く受け止めております。コロナ禍を機に急激な増加を見せており、R4年度、不登校出現率については、小学校2.83%(全国平均1.7%)中学校6.55%(全国平均5.98%)と深刻な状況といえます。文科省の調査では約4割が学校内外での支援を受けられておらず、多様な「居場所」の確保が急がれると感じます。「居場所」のひとつとして【不登校特例校分教室】は大変有効であると感じました。視察では、この取組が不登校の長期化を防いでいる…との成果が報告されました。松江市の現状をしっかりと把握し、現場の声を聞いたうえで、松江市にふさわしい設置を目指し活動を進めたいと考えます。